

TOYOBO NOW

第158期 中間報告書
2015年4月1日～2015年9月30日



TOPICS

「骨再生誘導材」の治験を開始

診断薬事業を強化 — 敦賀バイオ工場に酵素精製新棟を建設

生体情報計測ウェア市場に参入

ぎゅっとコミュニケーション

「ハグビー®」に「ウォームフィール®20」が採用

「骨再生誘導材」の治験を開始 ～次世代の骨再建材料として製品化をめざす～

当社は、東北大学が開発した「骨再生誘導材」の製品化をめざし、本年6月より、歯科・口腔外科領域で治験を開始しました。

「骨再生誘導材」は、粉末状のリン酸オクタカルシウムと医療用コラーゲンを原材料として写真のようにディスク状に加工したもので、骨の欠けた部分や薄くなった部分に埋めると、骨の再生を促進させる働きがあります。

例えば、歯のインプラント治療を行うためには、歯を支える骨（歯槽骨）の再建を要することがあります。この場合、現在は、患者自身の健全な骨を採取して移植する「自家骨移植」が一般的ですが、入院治療が必要となるほか、骨の採取部に傷や痛みが残ることもあります。当社は、こうした患者の負担を軽減できる新たな技術・治療材料として神経再生誘導チューブ「ナーブリッジ®」につづく、新しい再生誘導材として製品化をめざしています。

元の自家骨と同等の性質が期待できる

患者の負担を大幅に軽減

体内に残らない



Top Message



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、世界経済においては、米国経済が内需主導で回復基調を維持しましたが、中国では景気の減速感が強まるなど、先行き不透明な状況が続きました。一方、国内においては、新興国経済の減速の影響を受けて、設備投資の動きは鈍く、また個人消費の回復にも力強さが欠けるなど、景気は足踏みの状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、「環境、ヘルスケア、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、特長のある製品を、国内外の市場へ展開し、成長を実現するための事業活動を進めております。当期間においても、2017年度までの中期計画で掲げた「海外展開の加速」、「新製品の拡大・新事業の創出」、「国内事業の競争力強化」、「資産効率の改善」、「グローバル経営機能の強化」の5つのアクションプランに沿って、事業活動を進めました。

「海外展開の加速」においては、エアバッグ用基布事業では、ドイツの原系メーカーの共同買収を背景に、タイ・中国・米国における生産拠点の整備と営業活動の強化に努め、中期計画後半での拡大に向けた体制づくりを進めました。

代表取締役社長

榎原誠慈

業績ハイライト

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)・1株当たり当期純利益 (円)



「新製品の拡大・新事業の創出」では、液晶偏光子保護フィルムとして展開する「コスモシャイン®SRF」や、国内初の神経再生誘導チューブ「ナーブリッジ®」などの拡販に努めました。「コスモシャイン®SRF」は、海外ユーザーへの展開が拡大し、前年同期比で増収となりました。一方、「ナーブリッジ®」については、国内では適用症例数と使用施設数が着実に増加する中、海外での販売に向けて、米国での認証取得や販売ルート確保のための準備を進めました。さらに、将来の成長・拡大のための布石としては、「骨再生誘導材」の治験を歯科・口腔外科領域で進めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比74億円(4.3%)増の1,797億円となり、営業利益は同15億円(16.4%)増の105億円、経常利益は同44億円(83.5%)増の97億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同28億円(106.4%)増の54億円となりました。

中間配当につきましては、財務状況や財務体質の強化なども勘案して見送らせていただくことといたしました。

2015年度通期業績につきましては、新製品の拡販などを見込んでおりますが、市場環境には不透明感があることを踏まえ、売上高3,650億円(前期比137億円増)、営業利益230億円(同24億円増)、経常利益210億円(同47億円増)、親会社株主に帰属する当期純利益115億円(同34億円増)を予想しています。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

診断薬事業を強化 — 敦賀バイオ工場に酵素精製新棟を建設

当社は、敦賀バイオ工場に、診断薬の原料となる酵素を生産する新棟を建設し、酵素の精製設備と貯蔵庫を増設しました。本年4月から稼働を開始し、精製能力は50%増となりました。

診断薬は、血液中の血糖値や尿酸値、コレステロール値などを調べることができ、日常の健康管理や生活習慣病の早期発見等に貢献しており、新興国を中心に需要が拡大しています。今後も増産体制を整えるなど、診断薬用酵素事業を積極的に展開していきます。



総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ





事業別業績の概要

Films and Functional Polymers

フィルム・機能樹脂事業

フィルム事業では、包装用フィルムは、天候に恵まれて需要が堅調に推移し、売上は前年同期並みとなりました。工業用フィルムは、液晶市場の調整やスマートフォン市場停滞の影響を受け、減収となりました。「コスモシャイン®SRF」は、テレビ向け用途で海外ユーザーを中心に堅調な出荷が続きました。

機能樹脂事業では、工業用接着剤「バイロン®」が、塗料用途やIT・電子関連用途で苦戦し、減収となりました。エンジニアリングプラスチックは、国内では自動車生産台数の減少に伴い苦戦しましたが、中国、米国やタイを中心に海外で販売を伸ばし、増収となりました。



売上高

765 億円 ↑6.1%増
(前年同期比)

営業利益

40 億円

Industrial Materials

産業マテリアル事業

エアバッグ用基布は、国内の自動車生産台数減少の影響により、減収となりました。スーパー繊維では、「ダイニーマ®」は釣り糸用途が苦戦しましたが、「ザイロン®」が耐熱用途を中心に販売を伸ばし、増収となりました。機能フィルターでは、自動車関連用途は低調に推移しましたが、VOC処理装置がアジア市場の市況改善により堅調に推移し、増収となりました。生活・産業資材は、衛材用途のポリエステル短繊維が好調に推移しましたが、スパンボンドは、土木・建築用途の市況が低迷し、減収となりました。

売上高

353 億円 ↑3.5%増
(前年同期比)

営業利益

32 億円



(営業利益 消去 全社△15億円)

※当期より、報告セグメントの区分を変更しておりますので、前年同期比増減率は、変更後の事業区分に組み替えた売上高に基づき算出しております。

Healthcare

ヘルスケア事業

バイオ事業では、ライフサイエンス用試薬が好調に推移しましたが、主力の診断薬用酵素の販売が市況の影響を受けました。メディカル事業では、医薬品製造受託が受託案件延期の影響を受けて苦戦しました。また、機能膜事業では、海水淡水化用逆浸透膜は、海外向け交換膜の販売が低調に推移しました。

売上高

135 億円 ↓4.7%減
(前年同期比)

営業利益

21 億円



Textiles and Trading

繊維・商事事業

スポーツ衣料製品は、大手アパレル向けの販売が苦戦しました。ユニフォーム用途は、全般に堅調に推移しました。テキスタイルは、中東向け特化生地販売が為替の影響もあり、大幅な増収となりました。アクリル繊維は、原料価格が軟化したものの、中国での市況悪化もあり、販売は苦戦しました。



売上高

438 億円 ↑2.6%増
(前年同期比)

営業利益

12 億円

Others

不動産事業／その他事業

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等の各事業は、概ね計画どおりに推移しました。

売上高

105 億円 ↑14.8%増
(前年同期比)

営業利益

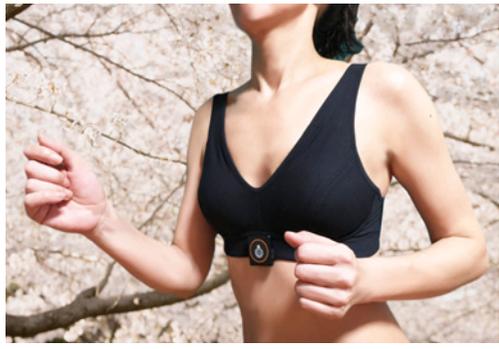
15 億円

四半期連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	当上半期末 (2015年9月30日現在)	前期末 (2015年3月31日現在)	科目	当上半期末 (2015年9月30日現在)	前期末 (2015年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	189,717	196,607	流動負債	133,685	146,250
固定資産	266,866	269,202	固定負債	160,089	158,472
有形固定資産	208,201	209,289	負債合計	293,773	304,722
無形固定資産	3,572	3,311	純資産の部		
投資その他の資産	55,094	56,602	株主資本	118,314	116,065
資産合計	456,583	465,809	その他の包括利益累計額	41,323	41,923
			非支配株主持分	3,173	3,098
			純資産合計	162,810	161,087
			負債・純資産合計	456,583	465,809

独自の素材と計測技術で生体情報計測ウェア市場に参入 ～自然な着心地と精度の高い情報収集を実現～



当社は、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM) 拠点」事業の「運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点」(研究リーダー:立命館大学)に参画し、本技術の一部を提供しています。

当社グループは、伸縮性に優れた導電材料で生体情報計測ウェアに適した機能性素材「COCOMI(心美)™」を開発しました。「COCOMI(心美)™」は、電子材料用途に開発したストレッチャブル導電ペーストの技術を発展させたもので、高精度な生体情報を収集することができ、さらにフィルム状で非常に薄く(約0.3mm)、加工しやすいため、身体の動きに追従する自然な着心地の生体情報計測ウェアを実現できるなどの特長を持っています。当社グループでは、人の感覚と機器測定をつなぐ独自のノウハウ「感覚計測技術」も生かし、スポーツウェア、メディカル用途などへの展開を視野に入れ、衣服までを含めたトータルソリューションを提供していきます。



ぎゅっとコミュニケーション「ハグビー®」に「ウォームフィール®20」が採用

株式会社京都西川(以下、京都西川)、株式会社国際電気通信基礎技術研究所(以下、ATR)と東洋紡STC株式会社(以下、東洋紡STC)の3社で共同開発し、京都西川が販売するぎゅっとコミュニケーション「ハグビー®」に「ウォームフィール®20」が採用されました。

「ハグビー®」は、石黒浩ATRフェローらが中心となって開発した、ヒトをイメージさせる最もシンプルな形状のクッション型コミュニケーションメディアです。携帯電話などを頭部のホルダーに収納し、抱きしめながら通話することで、相手をより身近に感じ、安心感を生み出します。

「ウォームフィール®20」は、京都西川と東洋紡STCが共同開発した、暖かくとろけるような触り心地が特長で、「ウォームフィール®20」が採用されることで、従来品よりもさらに抱き心地の良さを感じることができるようになりました。



記者会見の様様

※「ハグビー®」はATRの登録商標です。

四半期連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当上半期累計 (自 2015年4月 1日 至 2015年9月30日)
売上高	179,683
売上原価	140,436
売上総利益	39,247
販売費及び一般管理費	28,736
営業利益	10,511
営業外収益	1,598
営業外費用	2,457
経常利益	9,652
特別利益	53
特別損失	1,104
税金等調整前四半期純利益	8,602
法人税等	3,144
四半期純利益	5,457
非支配株主に帰属する四半期純利益	98
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,359

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当上半期累計 (自 2015年4月 1日 至 2015年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,948
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,300
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 289
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 892
現金及び現金同等物の期首残高	20,389
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,497

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)



会社の概要・株式の状況

(2015年9月30日現在)

社名 東洋紡株式会社
 英文社名 TOYOBO CO., LTD.
 証券コード 3101
 創立 1882年(明治15年)5月3日
 設立 1914年(大正3年)6月26日
 資本金 51,730,003,166円
 本社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
 (代表 06-6348-3111)
 東京支社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
 名古屋支社 名古屋市中区市場木町390番地
 従業員数 連結 10,169名 単体 3,029名

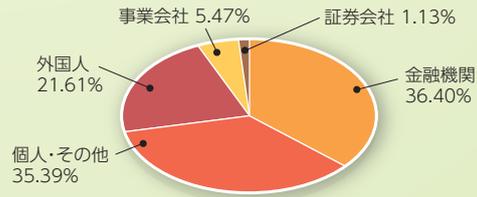
役員

代表取締役会長	坂元龍三
代表取締役社長	社長執行役員 榎原誠慈
代表取締役	専務執行役員 高橋寛
取締役	常務執行役員 香山和正
取締役	常務執行役員 高林博
取締役	常務執行役員 矢野邦男
取締役	常務執行役員 佐野茂樹
取締役	執行役員 手嶋真一
取締役	*注1 荻村道豪
取締役	*注1 岡豪敏
監査役(常勤)	西中久雄
監査役(常勤)	森田盛人
監査役	*注2 鶴飼昭生
監査役	*注2 里井義昇

(注1) 取締役のうち荻村道豪氏および岡豪敏氏は社外取締役であります。
 (注2) 監査役のうち鶴飼昭生氏および里井義昇氏は社外監査役であります。

■ 発行可能株式総数 2,000,000,000株
 ■ 発行済株式の総数 890,487,922株
 (自己株式2,670,470株含む)
 ■ 株主数 75,293名

株式分布の状況(所有者別)



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	60,983	6.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	44,975	5.07
全国共済農業協同組合連合会	22,000	2.48
ジユニパ一	21,416	2.41
日本生命保険相互会社	17,508	1.97
東友会	16,322	1.84
東洋紡従業員持株会	13,481	1.52
株式会社みずほ銀行	13,393	1.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,214	1.49
株式会社三井住友銀行	13,034	1.47

(注) 持株比率は、自己株式(2,670,470株)を控除して計算しております。

関係会社

	国内	海外	計
連結子会社	30	24	54
持分法適用会社	4	5	9
計	34	29	63



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 (期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
 定時株主総会 6月に開催いたします。
 基準日 定時株主総会の基準日は3月31日といたします。
 その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
 単元株式数 1,000株
 公告掲載ホームページアドレス <http://www.toyobo.co.jp>
 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店
 および全国各支店で行っております。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま(下の区分を除く)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (左記、照会先をご参照ください。)
御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた特別口座の株主さま	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

※証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 なお、2009年9月1日付、当社と御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた場合は、御幸ホールディングス株式会社において特別口座が開設された三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~999株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、売却または1,000株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度をご利用ください。



単元未満株式の買取を請求する。



単元株式(1,000株)にするため、不足する株数の株式の売り渡しを請求する。

(例)当社株式650株をお持ちの場合



650株を当社に市場価格で売却し、代金を受領する。

350株を当社から市場価格で購入し、単元株式(1,000株)とする。

お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。

